

## 課題研究以外の研究開発 1

# 教育課程の編成（外国語）

## 1 目的と期待される効果

### （1）目的

普通科の教育課程において、外国語（英語）に関する各科目の内容をグローバル・リーダー育成の目的で編成し直した学校設定教科「グローバルラーニング（G L）」の中に学校設定科目として設定することで、グローバルな社会課題について理解を深めるとともに、自己の考えを深化し、英語によるコミュニケーション能力を身に付ける。

### （2）期待される効果

英語の語彙を増やし、英語に対する関心と意欲を高めるとともに、探究心、表現力、コミュニケーション能力等が身に付くことが期待できる。

## 2 内容

次の①・②を学校設定科目として設定する。

- ① G L コミュニケーション英語（コミュニケーション英語 I の代替）
- ② G L 英語表現

## 3 実施方法

上記学校設定科目については、代替する科目の内容をグローバルな視点を重視して見直し、積極的に I C T 機器を活用して、アクティブ・ラーニングを取り入れて実施する。

「G L コミュニケーション英語」及び「G L 英語表現」を普通科 1 ～ 3 年次において分割履修する。

## 4 検証評価方法

- （1）普通科生徒及び保護者に対して「グローバル・リーダー」に関するアンケート調査を行う。1 年後、2 年後に同様のアンケート調査を実施し変容について分析する。
- （2）実用英語技能検定や T O E F L , T O E I C の受験及び目標レベル達成状況も検証する。調査結果は S G H 運営指導協議会で検証し評価する。
- （3）教員にもアンケート調査を 4 月及び年度末に行意識の変容について分析する。
- （4）大学進学実績をこれまでのものと比較検討し、検証評価する。

## 5 実施内容

### G L コミュニケーション英語

#### 目標

グローバル化に対応して、英語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養い、将来のグローバル・リーダーとして活躍できる能力と資質を養う。

### <内容の取扱い>

- ① 必修履修科目「コミュニケーション英語Ⅰ」を代替する科目として実施する。
- ② 指導に当たっては、「コミュニケーション英語Ⅰ」，「コミュニケーション英語Ⅱ」，「コミュニケーション英語Ⅲ」の内容等を参照し，内容を発展・拡充させ取り扱う。
- ③ グローバル・リーダーを育成する観点から，4つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導する。

### (1) 授業の概要

「GLコミュニケーション英語」の授業は，原則としてオールイングリッシュで展開している。他の科目も含めて，英語の授業における生徒の発話が半分以上である割合は90%である。また，ペアワークやグループワーク，ALTを交えてのディスカッション，ディベート等を取り入れ，課題となっている生徒の英語の話す・聞く力の向上に向けて取り組んでいる。

### (2) 授業展開例（課題研究を支える「GLコミュニケーション英語」の取組）

生徒がグラフ等を用いながら，英語でSGH課題研究を発表できるように，GLコミュニケーション英語でプレゼンテーションをパフォーマンステストとして実施した。活動では千葉県が千葉観光キャンペーンの一環として「千葉弁当」を販売することになったと仮定した。各グループが千葉県内の市町村職員になりきって，その市町村を紹介し，その地域の産物を用いた弁当の中身をグループで考案し，グラフ等のデータを用いながら「千葉弁当」の中身を提案した。

### 「GLコミュニケーション英語指導案」

- 1 日時 令和元年12月中旬
- 2 対象クラス 1年普通科（7クラス）
- 3 使用教材 教科書 *Revised ELEMENT English Communication I*（啓林館）  
ワークシート
- 4 単元名 Lesson 8 The Power of Presentation
- 5 単元目標
  - (1) 聴衆にとってわかりやすいように工夫しながら，グループでプレゼンテーションをする。
  - (2) グラフや図を用いながら，情報や自分たちの考えをグループで説明する。
  - (3) プレゼンテーションの後，質問の内容を確認しながら適切に答えることができる。
  - (4) 既存の知識を用いたり，文脈から推測したりしながら，東京オリンピック誘致のためのプレゼンテーションについての説明文を読む。
  - (5) 仮定法の使い方を理解する。
- 6 本時の目標
  - (1) 聴衆にとってわかりやすいように工夫しながら，グループでプレゼンテーションをする。
  - (2) グラフや図を用いながら，情報や自分達の考えを説明する。
  - (3) プレゼンテーションの後，質問の内容を確認しながら適切に答えることができる。

## 7 単元全体の指導計画

- (1) 導入、Part 1 (1 時間)
- (2) Part 2 (1 時間)
- (3) Part 3 (1 時間)
- (4) Part 4 (1 時間)
- (5) Review, Retelling
- (6) プレゼンテーション準備 (3 時間)
- (7) プレゼンテーション 1 (1 時間)
- (8) プレゼンテーション 2 (1 時間) 本時

## 8 本時の指導展開

| 段階<br>(配当時間)  | 具体的な評価  | 学習内容・学習活動   | 指導上の留意点   |
|---------------|---|---|---|
| 導入<br>(1 分)   |   | ・本日の活動、発表の順番、質問するグループを確認する。   | ・発表をするとき・聞くときの注意点を確認する。   |
| 展開<br>(3 4 分) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報は十分で、根拠が示され、オリジナルな提案であるか。(情報活用能力、思考力、創造的提案)</li> <li>・効果的なプレゼンテーションができているか。(コミュニケーション能力)</li> <li>・時折軽微な誤りはあるものの、コミュニケーションに支障のない英語で発表できているか(英語力)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・5 グループがポスターを用いて発表する。</li> <li>・各発表の後、教員から指名されたグループが発表に関して質問した。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表時間が4分を超える場合には、発表を速やかに終わらせるよう指示する。</li> <li>・生徒が質問を理解できない場合には、パラフレーズするなどして支援する。</li> </ul> |
| まとめ<br>(5 分)  |   | ・発表についてコメントする。  | ・発表について、良かった点、今後の改善点、生徒が使用した英語表現に対してフィードバックする。  |

## Performance Test (Group Presentation)

In Lesson 8, we learned the Power of Presentation, and how to make effective presentations. Now it's your turn to show the power of presentation.

**Topic:**

The Chiba Government has decided to sell "Chiba Bento" as the campaign to promote tourism in Chiba Prefecture. Chiba Bento will be sold at places which many people visit, such as Narita International Airport, Tokyo Disney Resort and La La Port. Chiba Bento will include food from Chiba. Now the Chiba Government asks cities and towns in Chiba Prefecture to suggest ideas.

**Procedure:**

The teachers decide groups of four people. Your group will choose a city or town in Chiba Prefecture (2グループまで同じ市町村を選んで良いが、オリジナリティが評価項目になることに注意すること). You will research the city/town and their products, and will think of an item for Chiba Bento.

**Content:**

Your presentation will be about **3 minutes**.

You need to

- ① introduce the city or town, and
- ② propose (an) item(s). (弁当の中身)

You need to show some **data** to support your proposal. 必ずデータとしてグラフや表をポスターに入れること。

グラフや表を示すときには “According to…”等を用いてどこからのデータなのかきちんと示すこと。表現については裏面参照。



**Visual Aids** You will show a **poster** (模造紙半分サイズ、手書き).

**Q&A**

The previous group will ask as many questions as possible within 2 minutes.

参考: 手始めに以下のサイトから調べ始めると良い

□ ちばの農林水産物ランキング！(順位別) (千葉県庁ホームページ)

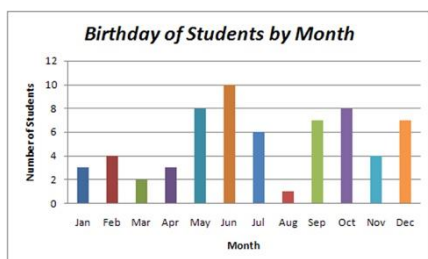
<https://www.pref.chiba.lg.jp/ryuhan/pbmgm/norin/juni.html>

\* 信頼できる情報源からデータは収集しよう。

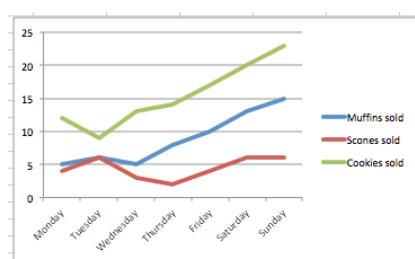
## Describing Graphs

### Graphs & Charts

#### ① Bar graph

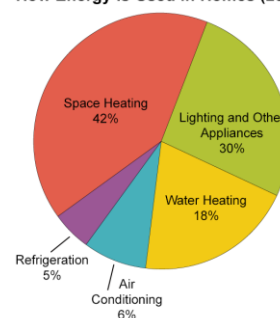


#### ② Line graph



#### ③ Pie chart

**How Energy Is Used in Homes (2009)\***



\* 2009 is the most recent year for which data are available.  
Source: U.S. Energy Information Administration, Residential Energy Consumption Survey (RECS) 2009.




#### ③ Table



**Table 1. | Water Availability by Region, 2013**

| Region                          | Average Water Availability<br>(cubic meters / person) |
|---------------------------------|---|
| Arab World                      | 500   |
| Sub-Saharan Africa              | 1,000   |
| Caribbean                       | 2,466   |
| Asia-Pacific                    | 2,970   |
| Europe                          | 4,741   |
| Latin America                   | 7,200   |
| North America (includes Mexico) | 13,401  |

Source: FAO, AQUASTAT (2013), UNESCO (2012)

### Useful Verbs & Adverbs

|   |   |  |
|---|---|--|
|  |  |  |
| increase  | decrease  | be/stay at the same level  |
| rise  | fall  | remain the same  |
| go up   | go down   | remain stable/steady   |
| soar  | decline   |  |

|   |  |           |          |
|---|--|-----------|----------|
|  |  |           |          |
| quickly   | suddenly   | gradually | slightly |
| sharply   | quickly  | steadily  |          |
| rapidly   |  | slowly    |          |

### Useful Expressions

- According to World fresh water resource, the oceans holds about 96.5% of all Earth's water.
- The chart on the left shows only 2.5 % of Earth's water is fresh water.
- As you can see in the chart on the right, 68.7% of fresh water is found in glaciers and ice caps.
- Ground water accounts for 30.1 % of fresh water as shown in the right graph.
- The graph shows that the average global temperature on Earth has increased by about 0.8° Celsius since 1880.
- As shown in this graph, the sale of Japanese traditional crafts dropped from 1983 to 2014.
- According to the German Association of Energy, wind, solar and biogas made up 36.3% of Germany's electricity production between January and June 2018.
- As you can see in the graph, the amount of food lost or wasted in North America and Oceania is about twice as large as that in South and Southeast Asia.

## 10 評価

以下のルーブリックを用いて評価した。

| 評価項目          | 評価の観点  | 評価  |
|---------------|--|---|
| Content<br>内容 | Originality,<br>Length, the<br>Amount of<br>Information,<br>Persuasiveness | 4 長さは3分以上で、聴衆を引きつけるイントロダクションで始まり、オリジナリティに富む。情報量は豊富で、根拠に基づいて説明されており、Chiba Bento として是非採用したいと思わせる説得力がある。<br>3 長さは3分以上でオリジナリティは認められる。情報量は十分で、根拠が示され、Chiba Bento に採用したいと思わせる内容である。<br>2 長さは2分以上だが、オリジナリティにやや欠ける。情報量はやや不十分で、Chiba Bento に採用したいと思わせるような根拠は不十分である。<br>1 長さは2分未満で、オリジナリティに欠ける。情報量は不十分で、Chiba Bento に採用したいとは感じられない。 |
| Cooperation   | Cooperation  | 3 常に全員が協力して準備、発表に取り組み、役割を均等に担っている。<br>2 時々、準備に協力していないメンバーがいる。発表の役割はやや不均等である。<br>1 しばしば準備に協力していない人がおり。発表の役割は不均等である。  |
| Delivery      | Volume, Eye<br>contact,<br>Posture   | 4 声量は十分で、アイコンタクトをほとんど常にとっており、ビジュアル・エイドを効果的に使用しながら適切な姿勢で話している。<br>3 声量はやや不十分だが、聞き取れる。アイコンタクトは大部分でとっており、ビジュアル・エイドを使用しながら適切な姿勢で話している。<br>2 声量は不十分で、聞きにくい時がある。アイコンタクトはとっていないときが多く、姿勢は不適切な時がある。ビジュアル・エイドはほとんど使用していない。<br>1 声量は不十分であり、聞こえない。アイコンタクトは全くとっていない、姿勢は不適切である。ビジュアル・エイドは使用していない。発表の長さが2分未満である。                         |
| English       | Pronunciation,<br>Grammar,<br>Word choice                                  | 4 ほぼ常に発音・文法は正確で、語彙や表現の選択も適切である。<br>3 まれに発音や文法に軽微な誤りがあるものの、コミュニケーションには支障はない。<br>2 時々発音や文法に誤りがあり、一部コミュニケーションに支障をきたすことがある。発話量が著しく少ない。<br>1 発音や文法に誤りが多く、コミュニケーションに支障がある、あるいは発表の長さが2分未満である。  |
| Q&A           |  | 3 発表に対して適切な質問をしている。質問に対して適切に答えている。<br>2 発表に対して質問をしている。質問に対して答えている。<br>1 質問できていない。あるいは質問に対して答えられない。           0 質問できない。答えられない。   |

## 1 1 成果と課題

S G H改題研究発表に向けて、グラフ等を含めたポスターを用いてプレゼンテーションに必要な語句を学習する良い契機となった。英語によるQ&Aについても良く取り組んでおり、Q&Aの練習をする良い機会になった。また、今まで知らなかった地元千葉県の特徴や問題等を自分たちで調べて発表しあうことで、自分達のすんでいる地域について考えを深めることができた。アイコンタクトがまだ不十分なので、指導の機会を増やしていきたい。また、Q&Aの準備が不十分なので、S G H課題研究発表の際には、十分に準備させたい。



以上の活動の他、時事問題への興味喚起を図るとともに、課題研究発表につながる語句・表現を学習する機会とした。さらに、海外研修でのディスカッションに向けて、「話し合ったり、意見の交換をしたりする（コミュニケーション英語Ⅰの内容）」活動だけでなく、「情報や考えについて、話し合うなどして結論をまとめる（コミュニケーション英語Ⅱの内容）」活動にも取り組んだ。

## 課題研究以外の研究開発 2

### 英語力、英語を用いてのコミュニケーション能力の育成

#### 1 目的と期待される効果

##### (1) 目的

実用英語技能検定等の取得や海外の人との交流を通して英語力及び英語を用いてのコミュニケーション能力を身に付ける。

##### (2) 期待される効果

国際社会で活躍し、グローバル社会で通用するレベルの英語力が身に付くことが期待できる。

#### 2 内容

(1) 実用英語技能検定（英検）の対策講座を展開する。英検 2 級は卒業までに全員、英検準 1 級は 50% の取得をめざす。

(2) ネイティブの講師や課題研究の指導等で来校する留学生とのコミュニケーションの機会を増やす。

#### 3 実施方法

(1) 英検の対策として課業期間の放課後や長期休業を利用した課外講座を開講し、受験を促す。各自に取得目標と計画を立てさせる。

(2) 個別の会話だけでなく、グループミーティングやディスカッションを行う。海外での課題研究の発表を視野に、ミニプレゼンやインタビュー形式のものを実施する。

#### 4 検証評価方法

(1) 検定の結果や目標の達成レベルを検証の指標とするとともに、海外での研究発表時の英語力に対する評価及び自己評価も分析する。

(2) 講師・留学生などによる評価や、アドバイスから改善を図る。

#### 5 実施内容

##### (1) 英検対策課外講座

| 区 分  | 内 容   |
|------|---|
| 面接講座 | 一次を合格した生徒対象に、二次試験直前の一週間のうち放課後等を利用し、面接講座を実施した。個々に時間を設定し、英語科の教員、ALT、外部講師で指導にあたった。 |

##### 令和元年度英語検定 2 級以上取得者数

| 項目        | 令和元年度（第 2 回まで） |       |     | 平成 30 年度 |       |     | 平成 29 年度 |       |     |
|-----------|----------------|-------|-----|----------|-------|-----|----------|-------|-----|
|           | 2 級            | 準 1 級 | 1 級 | 2 級      | 準 1 級 | 1 級 | 2 級      | 準 1 級 | 1 級 |
| 2 級以上取得者数 | 280            | 11    | 0   | 315      | 11    | 1   | 239      | 8     | 0   |
| 取得者／在籍    | 30.0%          |       |     | 33.6%    |       |     | 25.2%    |       |     |



(2) 英語を用いたコミュニケーションの機会

ア オランダの高校生との交流

(ア) 日 時 令和元年4月25日(木)

(イ) 場 所 本校各所

(ウ) 参加者 ドラードカレッジ生徒(5名)、引率者(1名)及び本校生徒

(エ) 内 容 英語の授業での交流(2年G組GLコミュニケーション英語40名、3年選択英語研究α26名)、学校案内、部活動交流など

イ マレーシアの高校生との交流

(ア) 日 時 令和元年11月29日(金)午後1時～午後4時

(イ) 場 所 本校地域交流施設

(ウ) 参加者 SMK SEKSYEN18校及びST JOHN校(22名)、同校教員3名、本校2年F組(40名))

(エ) 内 容 S G H課題研究発表(ハラールラーメン)、学校紹介、ディスカッション(日本とマレーシアの高校生活、日常生活など)

(3) 千葉県英語部会主催の英語ディベート講習会、大会への参加

希望者を募り各種講習会、大会に参加した。大会参加に伴い校内での練習を行った。

ア 第2回高校生英語ディベート千葉サマーカップレベル別大会8月20日(火)(4名)

イ 第11回千葉県高校生英語ディベート大会11月2日(土)(4名)

ウ 第3回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯千葉県大会練習会12月2日(日)(5名)

エ 第3回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯千葉県大会2月2日(日)

## 6 成果と課題

(1) 英検対策課外講座

大学入試改革における英語外部試験導入の有無や受験方法が不確定であったため、昨年度までの英語検定全員受験を見直した。新制度における混乱のために受験を控えた生徒も多く、受験料の割引制度が終わったこともあり受験者数が減った。2級取得者数は令和2年1月30日現在で280名である。なお、3年生は、英検I B Aでは2級以上相当の生徒は259名(85.2%10月時点)であり、これが100%に近づくよう、引き続き英語の授業に加え、様々な啓発、学習の機会を用意したい。

英検対策課外講座については、面接指導を重視し、A L Tも指導に加わった。来年度も引き続き実施したい。

(2) 英語を用いたコミュニケーションの機会

本校がオランダ派遣において交流しているドラードカレッジの生徒と、マレーシアの生徒との交流を行った。成果については、生徒が英語を主体的に活用し、英語力を高める契機となっており、有効である。

(3) 英語ディベート大会、講習会への参加

参加者にとっては、事前の準備も含めて、英語コミュニケーション能力や論理的思考力を高める良い機会となった。

参加人数が少ないのは課題ではあるが、興味はあってもS G H研究、部活動などとの兼ね合いで時間をとれない生徒が多い。校内での練習も含めて、機会を提供することを継続していきたい。